資料１

学研高山地区第２工区　事業状況について

前回会議（R7.11/28）以降の取組みを中心に報告

１．学研高山地区南エリア（先行地区）

２．学研高山地区ゲートエリア（次工区）

３．施設誘致に向けた今後の具体的取組み

４．学研高山地区及び周辺地域の価値向上事業

目次

１．学研高山地区南エリア(先行地区)

２．学研高山地区ゲートエリア(次工区)

３．施設誘致に向けた今後の具体的取組み

４．学研高山地区及び周辺地域の価値向上事業

南エリアの経過概要

地区の概要

面　　積　：　約４８ha
権利者数　：　約１４０名(代表者) R8.7時点

経過概要

[経　緯]

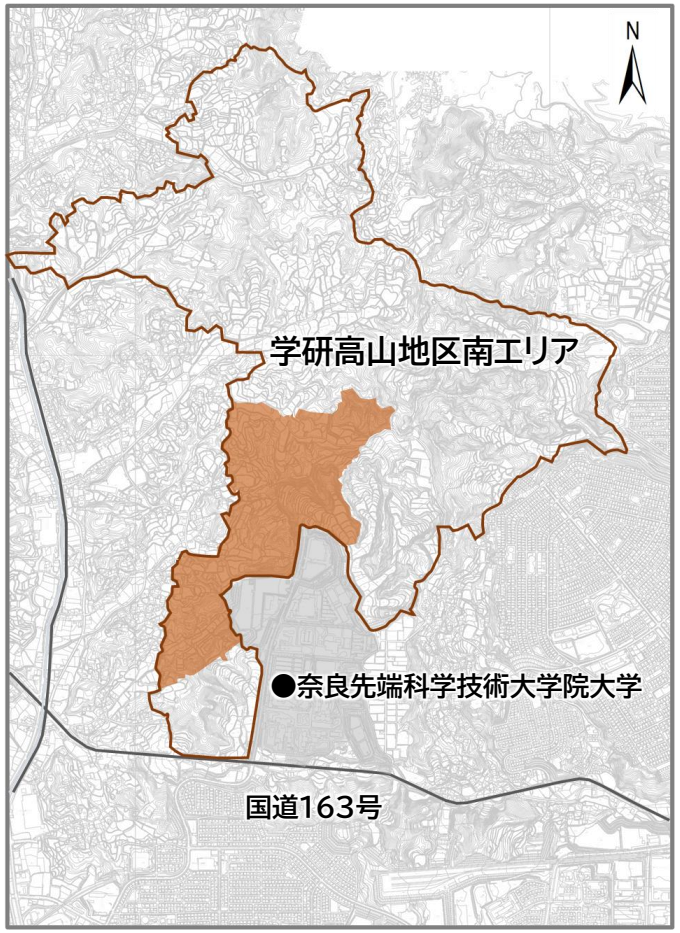
令和６年
　１２月　学研高山地区南エリア準備組合設立(同意率81%)

令和７年
　１０月　環境調査開始(R8.1冬調査～　現在秋調査中)
　１１月　先進地視察(彩都地区 大阪府茨木市)
　　企業へのＰＲ・周知(ＰＲパンフレットの配布)
　　第６回学研高山地区第２工区事業推進会議
　１２月　基本計画図(案)変更

令和８年
　３月　事業計画案作成
　４月　一括業務代行予定者一般公募開始(６月選定審査会)
　７月　第2回土地区画整理準備組合総会
　　一括業務代行予定者を(株)フジタに決定

[会　議]　※R7.11以降

準備組合 総会	１回開催
準備組合 役員会	５回開催
説明会・勉強会	２回開催(個別説明も合わせて実施)




先進地視察


第1回全体説明会

環境調査・事業計画案について

環境調査

時期

令和７年１０月～令和９年３月

項目

調査項目		
環境の自然的構成要素の良好な状態の保持を旨として調査、予測及び評価される環境要素	大気環境	大気質
		騒音
		振動
	水環境	水質
生物の多様性の確保及び自然環境の体系的保全を旨として調査、予測及び評価されるべき環境要素	動物	
	植物	
	生態系	
人と自然及び文化遺産との豊かな触れ合いの確保を旨として調査、予測及び評価されるべき環境要素	景観	
	人と自然との触れ合いの活動の場	
環境への負荷の量の程度により予測及び評価されるべき環境要素	廃棄物	

奈良県環境影響評価技術指針に記載の標準項目および奈良県環境影響評価技術指針マニュアルを参考に上記調査項目を選定。

事業計画案

作成時期

令和８年３月

内容

事業計画案(組合)

[概算事業費]

支出 ： １９０億円(内、工事費約１５０億円)
収入 ： 保留地処分金及び補助金

[平均減歩率]

約７５～８０％

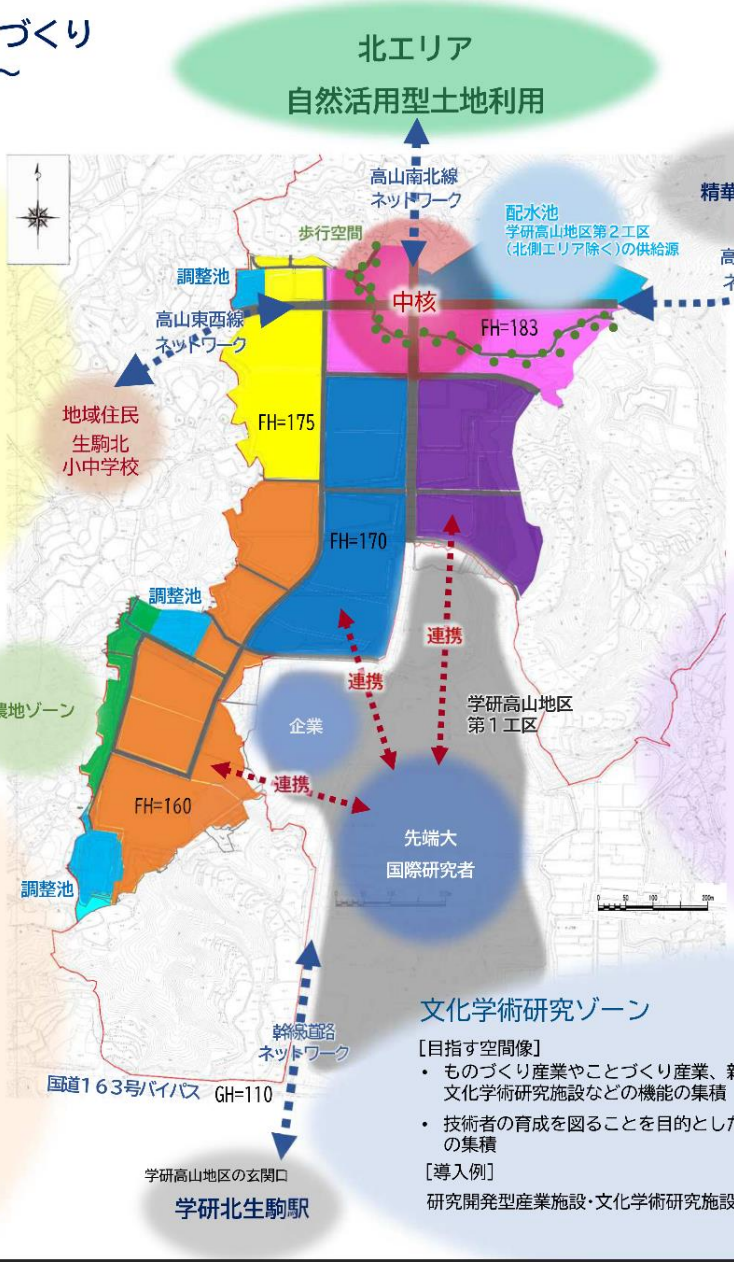
[備 考]

- 基本計画図(案)に基づく概算事業費の試算
- 令和７年度の事業費単価で算出
- 補助金は、国等の補助制度の活用について今後検討が必要
- 一括業務代行予定者公募の際の提示内容
- 将来的な物価上昇に伴うコスト変動をなしとして算出

学研高山地区南エリア 基本構想

令和６年１０月４日時点

学研高山 南エリアからつながるまちづくり
～ 世界に向けて Take off !! ～



住宅ゾーン（低層・中高層）

［目指す空間像］
- 住民が企業の研究開発に実証実験的な役割で参加する居住実験都市の実現
- ICT等を活用したスマートなライフスタイルの実現
- 子育て世帯や高齢者まで、あらゆる人が快適に住み続けられる次世代型居住環境の形成

［導入例］

次世代型戸建て住宅・中高層集合住宅・スマートタウン など



プレミスト平和台　ZEH-M　出典：大和ハウス工業HP

都市機能集積ゾーン

［目指す空間像］
- 周辺クラスター地区との連携による、相乗効果を生み出す学研高山地区の中核
- ライフステージの変化や新しい生活様式に対応することができる生活利便施設等の集積・誘導
- 人と人が交流する賑わい空間の創出

［導入が望まれる機能］

商業施設・医療機関・公共的空間 など



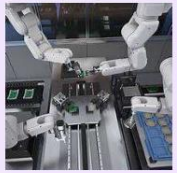
町田南グランベリーパーク
出典：南町田拠点創出まちづくりプロジェクト
新たな商業施設の姿

都市型産業ゾーン

［目指す空間像］
- 研究・イノベーション開発の拠点となる研究開発型産業施設の集積
- 文化・学術・研究の成果を活かす産業施設、ものづくり産業施設の集積

［導入例］

研究開発型産業施設・ものづくり産業施設 など





産業用ロボット
出展：FAロボット.com
（キーエンス）

研究支援・研究型産業ゾーン

［目指す空間像］
- 研究成果の実装・実証実験を行う場の創出
- イノベーションの創出、研究開発を支援するバックアップ拠点の創出

［導入例］

研究開発型産業施設・データセンター など



データセンター
出典：NTT　データセンターの成長戦略

文化学術研究ゾーン

［目指す空間像］
- ものづくり産業やことづくり産業、新しい価値を創出する場としての文化学術研究施設などの機能の集積
- 技術者の育成を図ることを目的とした施設の誘致やスタートアップ企業の集積

［導入例］

研究開発型産業施設・文化学術研究施設　など

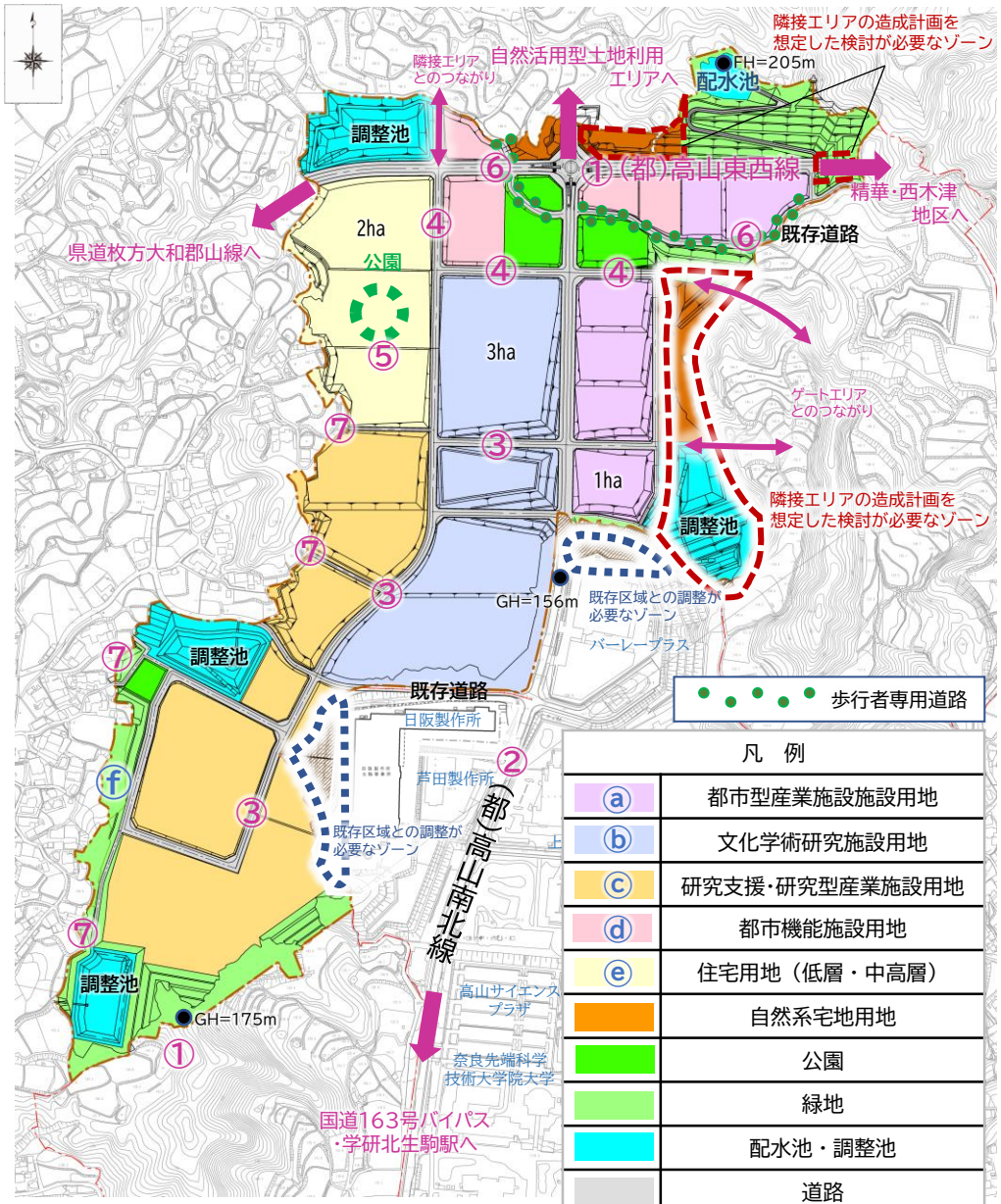


国際電気通信基礎技術研究所（ATR）
出典：ATR HP

※ 基本構想の内容は、イメージであり確定したものではありません。

学研高山地区南エリア基本計画図（案）

令和７年１１月時点



※土地利用種別(各用地)の位置・面積規模については、立地企業等の動向を踏まえ柔軟に対応するものとする。

概略計画・設計方針

■造成計画・街区計画・・・流域や丘陵地形、道路勾配、施設配置を考慮した造成計画

- ⓐⓑⓒ **産業系施設用地** ・・・ 大街区の構成を基本 【約23ha】
- ⓓ **商業系施設用地** ・・・ 骨格道路沿道に配置 【約2ha】
- ⓔ **住宅用地** ・・・ 大街区の構成を基本(二次造成にて宅地街区割り) 【約5ha】
- ⓕ **集合農地** ・・・ 農地(田)希望者の換地(1か所で500㎡以上必要)を農業用水の配水ルートを勘案し配置。

■道路のルート設定・勾配設定

＜骨格道路＞・・・都市計画道路として整備

①高山東西線　幅員18m(先端大西側既存道路幅員と同じ) 勾配 約1.0～2.5%
②高山南北線　幅員18m(先端大西側既存道路幅員と同じ) 勾配 約2.0～6.0%
※幅員構成については将来の次世代交通を見据え、柔軟に対応する。

＜補助幹線道路＞・・・土地利用や次工区へのつながりを考慮した道路計画

③幅員10m(片側歩道)(主に産業系、研究・研究支援ゾーン)
④幅員12m(両側歩道)(主に住宅、商業系ゾーン)

＜区画道路＞

⑤住宅用地内の道路は、別途二次造成計画時での配置を想定。(幅員6.0m)

＜歩行者専用道路・歩行者ネットワークの形成＞

⑥既存道路(ガス道の一部)は歩行者専用道としての整備を検討。
なお、植栽を施すなど歩行者空間の整備についても検討。
⑦既存集落からのアクセスを考慮した歩行者専用道の配置を検討。

■既存集落との調和

・既存集落の隣接部は、緩衝帯を設ける等の環境負荷軽減対策を検討。

■緑の街並み形成

・骨格道路(高山南北線・高山東西線)沿いには植栽を施す。
・地区界縁辺部には、緑地(自然緑地)の配置を検討。
・公園は、土地区画整理事業の基準(区域の3%以上)を満たし、南エリアの中心部に配置するとともに、地区のバランスを考慮して配置を検討。
・ネイチャーポジティブ※1の観点からグリーンインフラ※2の整備を検討。
・その他、地区計画等の指定により、適宜、敷地内緑化を検討。

■調整池の位置・規模の設定

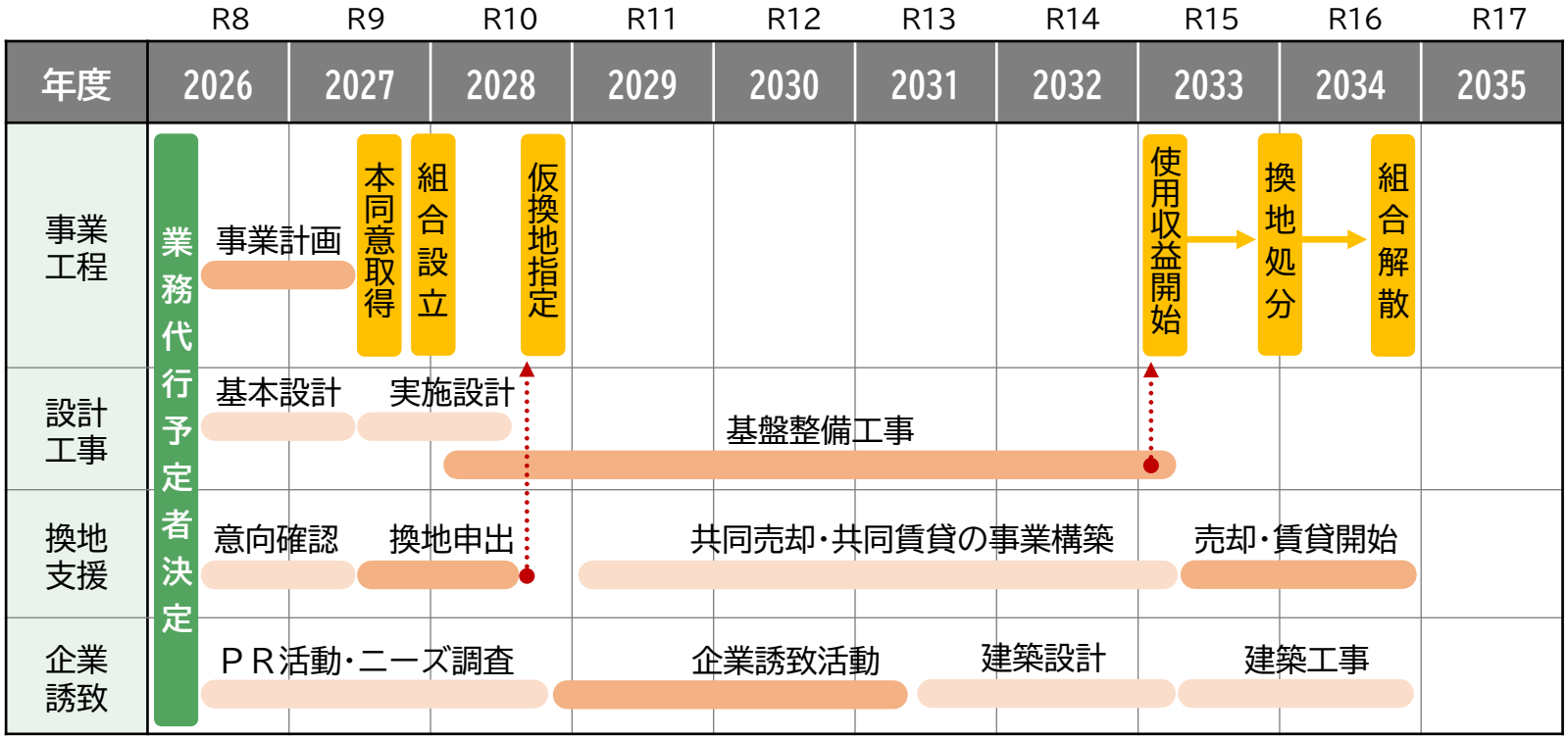
調整池・・・地区内の雨水排水を集めるため、流域の流末(地区内)付近に配置する。規模は、法令等に定められた基準値以上とする。

■農業用水路の機能復旧

農業用水路・・・農業用水の地区内外への配水ルートを確保する。

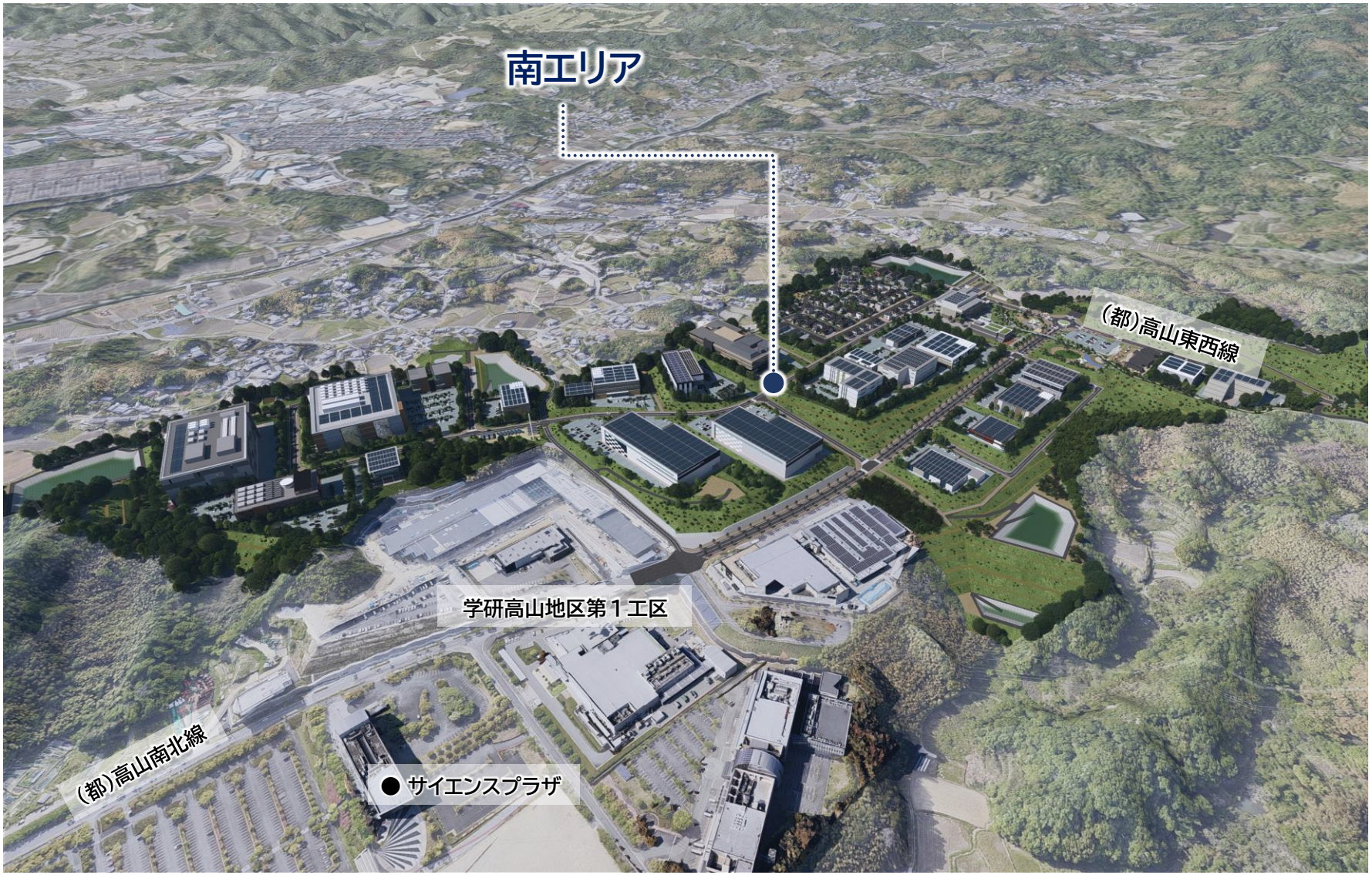
※1・・・自然生態系の損失を食い止め、回復させていくこと。
※2・・・自然環境が有する機能を社会的効果として発揮できるようにするための仕組み。

事業スケジュール(目標)



●現段階の想定で、今後の業務の進捗に応じて見直される可能性があります。

イメージパース((株)フジタの提案R8.7)



※本ページの内容は、一括業務代行予定者募集に係る提案において作成されたものです。今後の検討により変更されるものであり、決定したものではありません。

目次

１．学研高山地区南エリア(先行地区)

２．学研高山地区ゲートエリア(次工区)

３．施設誘致に向けた今後の具体的取組み

４．学研高山地区及び周辺地域の価値向上事業

ゲートエリアの経過概要(R6.9～)

地区の概要

面　　積　：　約４３ha
権利者数　：　約１２０名（代表者）R8.8時点

経過概要

[経　緯]

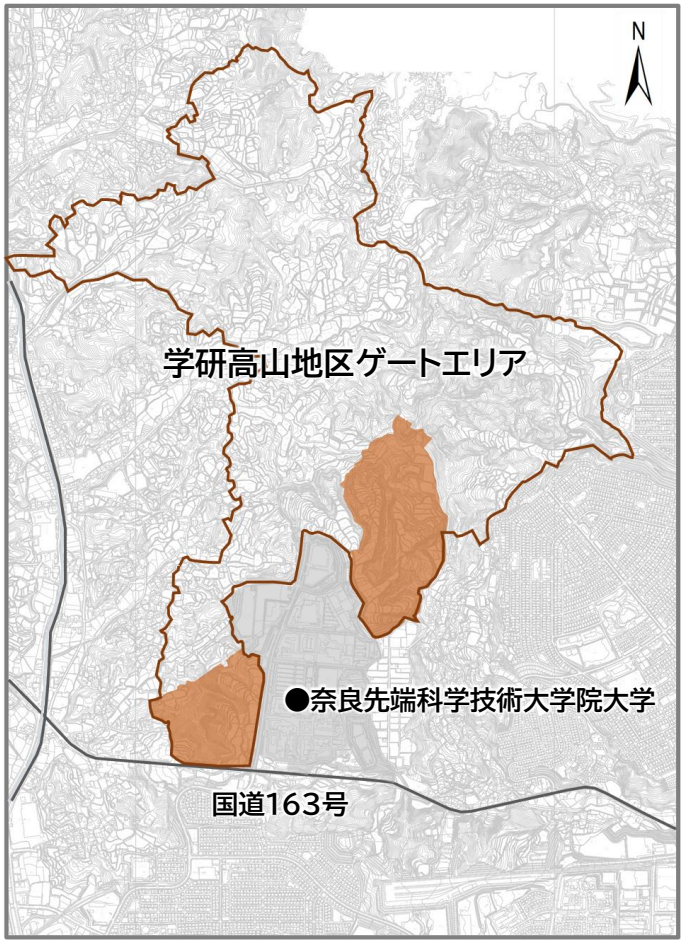
令和６年
１２月　学研高山地区ゲートエリアまちづくり協議会設立
（参加率77%）

令和７年
１０月　基本構想作成
１１月　**第６回学研高山地区第２工区事業推進会議**
１２月　基本計画図(案)作成

令和８年
１月　準備組合設立に係る同意取得の開始
８月　**学研高山地区ゲートエリア準備組合設立**
（同意率82%）

[会　議]　※R7.11以降

まちづくり協議会総会	１回開催
まちづくり協議会役員会	６回開催
説明会	１回開催
準備組合総会	１回開催
準備組合役員会	２回開催




準備組合設立に向けた説明会


準備組合設立総会 役員一同

ゲートエリアまちづくり基本構想

令和7年10月28日時点

多様な学びと交流の出発点／最先端テクノロジーによるイノベーション拠点 - 学研高山ゲートウェイ -

交流・発信ゾーン[高山ゲートウェイ]

[目指す空間像]

- 学研高山地区の玄関口にふさわしい交流と賑わいが生まれる機能と場の集積
- 学研都市にふさわしい次世代交通システム実装による移動手段の高度化に資する空間整備
- 地域の魅力や歴史・文化・伝統・アート、先端大等の研究成果の情報発信基地
- 公園・緑地・調整池等におけるグリーンインフラの創出

[導入が望まれる機能]
・交流・発信施設　・多機能調整池
・ウェルビーイングに資する施設
・地域住民の学びにつながる場
・次世代移動システム



イメージ　シーパルピア女川
出典：女川町ＨＰ



イメージ　岸和田市道の駅「愛彩ランド」（修景型調整池）
出典：岸和田市ＨＰ



イメージ　規制・制度改革とデータ連携を一体的に進め、先端的サービスを実装「つくば市スーパーサイエンスシティ」
出典：地方創生２．０好事例



都市型産業ゾーン

[目指す空間像]

- 文化・学術・研究成果を活かす産業施設・生産施設の集積
- 研究成果の社会実装に向けた施設の集積
- デジタル・ＡＩ等の新技術を活用した施設の集積
- ＧＸ・ＤＸを活用した産業構造に向けたワット・ビット連携等による新時代の面的インフラ整備

[導入が望まれる機能]
・研究開発型産業
・高付加価値なデータセンター



イメージ 生産管理におけるAI活用事例
出典：NTT東日本HP



イメージ　データセンターを核とした周辺への企業・人材の集積　出典：北海道HP

文化学術研究ゾーン

[目指す空間像]

- 技術者の育成を図ることを目的とした施設やスタートアップ企業・研究所・人材の集積
- 産学官金の連携による研究成果を活かした文化学術研究施設
- 先端大研究分野（情報科学領域・バイオサイエンス領域・物質創成科学領域）の関連企業の集積
- 先端大を中心とした教育機関との連携の施設

[導入が望まれる機能]
・高専や先端大に関連する教育施設　・産学官金連携施設
・先端大連携研究施設　・首都機能のバックアップ施設



イメージ　スタートアップ支援拠点 STATION Ai　出典：愛知県ＨＰ

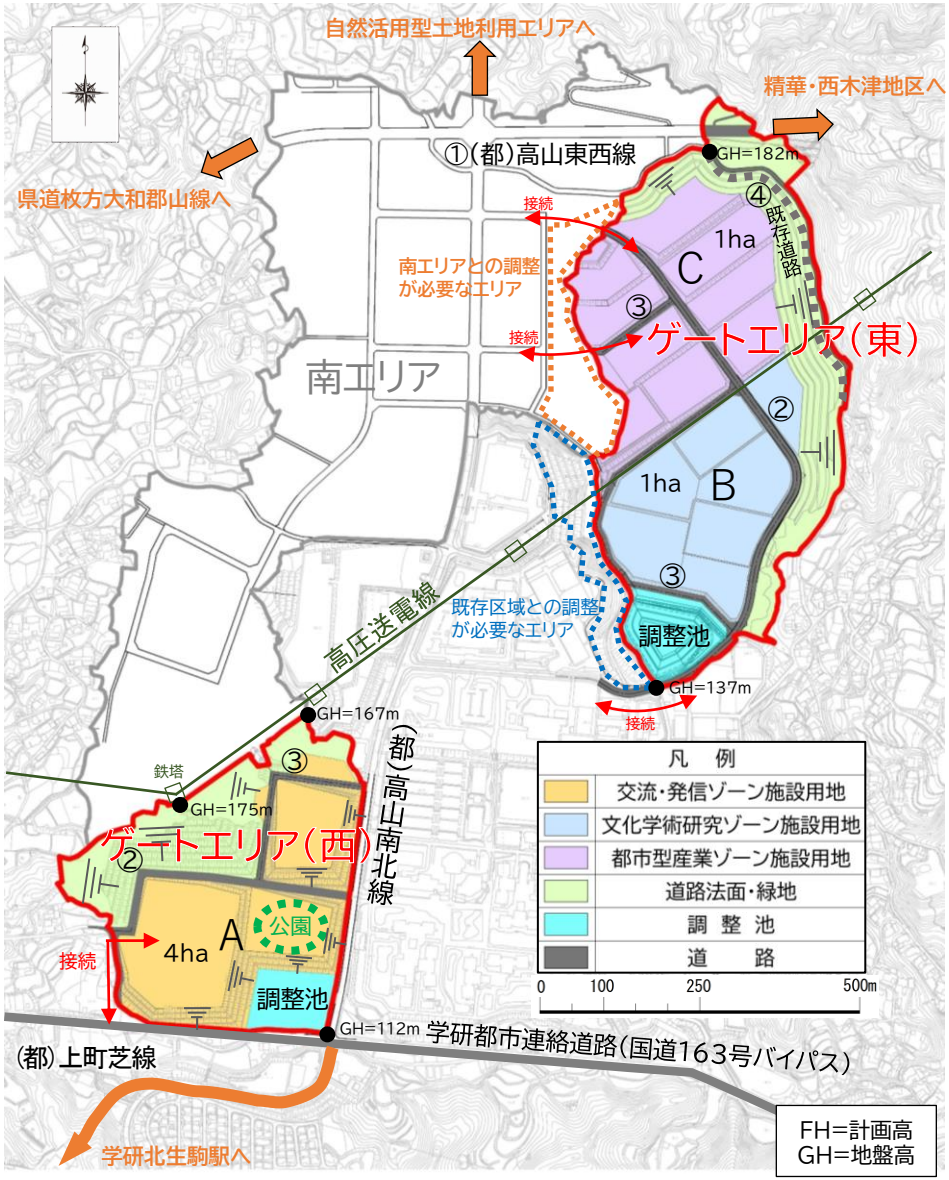


イメージ　つくば市物質材料研究機構
出典：国立研究開発法人物質材料研究機構HP

※基本構想の内容はイメージであり確定したものではありません。今後の社会潮流や上位計画の変更等により適宜、見直していきます。また、住宅用地や農地等については、適宜、計画に反映していきます。

学研高山地区ゲートエリア基本計画図（案）

令和7年12月時点



概略計画・設計方針

■造成計画・街区計画

・・・流域や丘陵地形、道路勾配、施設配置を考慮した造成計画

〈産業系施設用地〉

A　交流・発信ゾーン・・・・・・大街区の構成を基本【約16ha】

B　文化学術研究ゾーン・・・大街区の構成を基本【約13ha】

C　都市型産業ゾーン・・・・・大街区の構成を基本【約14ha】

■道路のルート設定・勾配設定

〈骨格道路〉・・・都市計画道路として整備

① 高山東西線　幅員18m（先端大西側既存道路幅員と同じ）勾配約2.5%

※幅員構成については将来の次世代交通を見据え、柔軟に対応する。

〈その他道路〉・・・隣接工区とのつながりを考慮した道路計画

高圧送電線下敷の空間を活用した道路計画

② 幅員12m（補助幹線道路）勾配約1.0%～7.0%

③ 幅員10m（区画幹線道路）勾配約1.0%～6.0%

④ 既存道路（鹿畑清水線）は歩行者空間の整備について検討。

■緑の街並み形成

・骨格道路（高山東西線）沿いには植栽を施す。

・交流・発信ゾーン内に公園の配置を検討。

・主に地区界縁辺部には、緑地（自然緑地）の配置を検討。

・地区計画の指定により、適宜、敷地内緑地を検討。

■調整池の位置・規模等の設定

調整池・・・地区内の雨水排水を集めるため、流域の流末（地区内）付近に配置する。規模は法令等に定められた基準値以上とする。

交流・発信ゾーンは公園等と調和のとれた多機能の調整池を検討。

※土地利用種別（各用地）の位置・規模については、立地企業等の動向を踏まえ柔軟に対応するものとする。

※この計画図(案)は、令和7年12月時点のものであり、今後の検討で変更となる場合があります。

目次

１．学研高山地区南エリア(先行地区)

２．学研高山地区ゲートエリア(次工区)

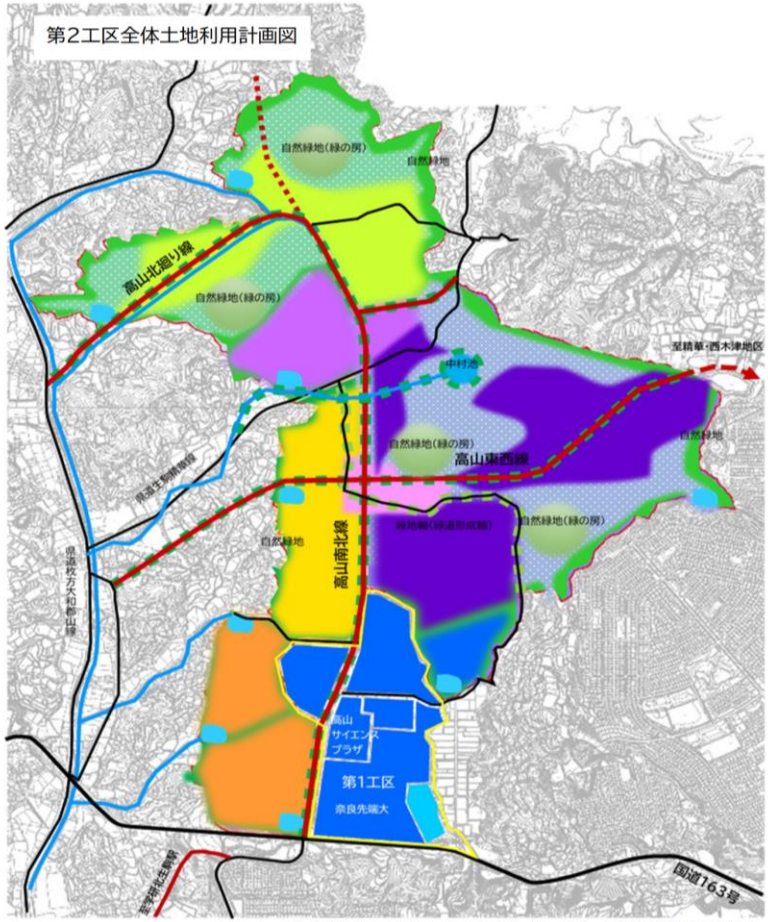
３．施設誘致に向けた今後の具体的取組み

４．学研高山地区及び周辺地域の価値向上事業

Ⅰ　施設誘致に向けた今後の具体的取組

■学研高山地区第2工区全体土地利用計画

- 学研高山地区第2工区マスタープラン(R4.6)の土地利用方針を基に作成。
- 各個別地区の計画に際しては、本土地利用計画の考え方を基本に、地権者意向や事業アドバイザーの意見、立地等検討企業の業種等に留意のうえ作成を行う。
- 土地利用種別の位置・面積規模については、柔軟に対応する。



デジタルインフラ　・超スマート社会の実現に資する、Iot や AI、ビッグデータ等 IT 技術の基盤を支える電力や通信網などデジタルインフラの整備・強化を促進する。

土地利用種別	土地利用の考え方	土地利用のイメージ
自然活用型施設用地	・地区周辺の豊かな自然環境や歴史文化資源、伝統産業などの地域特性を活かした、最先端技術との共生を図り、新たな産業を創出する。	・第6次産業を活かした研究者・来訪者向けの滞在型宿泊施設、観光施設 ・周辺の伝統産業の振興に寄与する施設 ・健康増進やレクリエーションに資する自然体感型施設
自然活用型産業施設用地		・第6次産業施設 ・IoT や AI 技術を活用した省力化、自動化を推進するスマート農業 ・学術・研究に資する試験圃場
計画建設用地(自然的)	・誘致施設の立地動向等を見極めつつ、二次的に整備を行う。	・自然活用型施設、自然活用型産業施設
文化学術研究施設用地	・研究・イノベーション開発の拠点となる研究開発型産業施設に加え、ものづくり産業やことづくり産業、新しい価値を創出する場としての文化学術研究施設などの機能の集積を図る。	・文化学術研究施設 ・デジタル技術を駆使した変革に対応する産業施設 ・バイオ分野の研究に資する施設 ・首都機能のバックアップ施設
都市型産業施設用地		・奈良先端大を中心とした産学官民の連携による研究成果を活かした都市型産業施設 ・超スマート社会の実現に資する先端技術等の研究開発型産業施設 ・ものづくり産業施設、ことづくり産業施設
計画建設用地(都市的)	・誘致施設の立地動向等を見極めつつ、二次的に整備を行う。	・文化学術研究施設、都市型産業施設
研究支援・研究型産業施設用地	・ライフステージの変化や新しい生活様式に対応することができる生活利便施設等の集積・誘導を図る。 ・人と人が交流する賑わい空間の創出を図る。 ・研究成果の実装・実証実験を行う場の創出を図る。	・奈良先端大や先端大と連携する企業や研究者をサポートする施設 ・商業、交流、住宅、産業施設
都市機能施設用地		・地区内外の就業者や居住者のための都市的サービス施設 ・地区のシンボルに相応しい公共広場などの公共的空間
住宅用地(低層・中高層)	・住民が企業の研究開発に実証実験的な役割で参加する居住実験都市の実現を図る。 ・ICT 等を活用したスマートなライフスタイルの実現。 ・子育て世帯や高齢者まで、あらゆる人が快適に住み続けられる次世代型居住環境の形成を図る。	・住民や企業の研究開発に実証実験的な役割で参加する居住実験都市 ・ICT 等を活用した最先端のスマートなライフスタイルを実現する戸建て住宅や集合住宅
骨格道路(補助幹線道路)(区画道路)(歩行者専用道路)既設道路	・骨格道路のうち、高山東西線は、学研都市内の広域幹線道路(重要路線)として位置付け、関係機関協議のもと早期事業化を図るものとする。 ・骨格道路による個別地区間の繋がりを基本としつつ、地区内道路(補助幹線道路・区画道路・歩行者専用道路)についても必要に応じ地区間の繋がりに配慮した計画とする。 ・計画建設用地が存する場合は、その開発時(二次開発)に支障をきたさない道路計画とする。 ・地区内の既設道路については地区間を連携する補助幹線道路として活用する。	
公園・緑地自然緑地(グリーンインフラ)	・ネイチャーポジティブからみた生物多様性、カーボンニュートラル等への貢献、社会資本整備やまちづくりの質の向上(ウェルビーイング)・機能強化、SDGs・地方創生への貢献を踏まえたグリーンインフラの創出により、「都市と自然環境が共生」する都市の形成を目指す。 ・地区全体を俯瞰し、隣接する個別地区等の土地利用や企業用地等の敷地内緑地との連携・調和を図るものとする。 ・地区界周辺の地域や農地など地区周辺の土地利用を考慮したうえで、公園や緑地、宅地内緑地をバッファゾーンとして適切に配置する。 ・骨格道路や地区内幹線道路を緑の幹や枝に見立て、自然緑地や公園・緑地、宅地内緑地など緑の房とのつながりに配慮し、適切に配置する。 ・高圧線の線下敷については建築制限を受けるため、緑地を配置するなど	
河川・農業用水路既存池調整池(グリーンインフラ)	・グリーンインフラの考え方を取り入れ、生物多様性の保全に配慮しつつ、水辺空間の創出を図る。 ・地区内に整備されている農業用水路(北倭土地改良区)が事業により分断することの無いように機能復旧を行う。 ・地区で必要となる調整池をあらかじめ整備しておく。	

※本ページの内容は、R8.9/9生駒市議会経済建設委員会の資料と同じ内容です。

Ⅰ　施設誘致に向けた今後の具体的取組

誘致すべき主な施設

- 文化学術研究施設
- 研究開発型産業施設
- 文化・学術・研究の成果をいかす産業施設や生産施設
- 住宅施設
- 都市的サービス施設
- レクリエーション施設
- 首都機能のバックアップにつながる国の施設

誘致に向けた現在の取組

・立地等検討企業エントリー
・企業への事業PR、周知
・立地誘導戦略検討調査
・奈良先端大との連携
・国の施策動向把握

・・・ **誘致に向けた新たな取組**
次ページ以降で説明

※本ページの内容は、R8.9/9生駒市議会経済建設委員会の資料と同じ内容です。

Ⅱ　首都機能のバックアップにつながる国の施設誘致

「国家社会機能継続性確保施策及び副首都の整備に係る施策の推進に関する法律」(副首都法)の概要

令和8年7月31日　副首都法　公布（3月を超えない範囲内において政令で定める日から施行）

＜法の目的＞
- 首都直下地震などの大規模災害に備えて、国家・社会の重要な機能を途切れさせない。
- 東京一極集中を緩和し、多極分散型の国土・経済構造に転換する。

＜副首都の定義と役割＞
- 東京圏で大規模災害などが発生し、首都中枢機能が十分に果たせない時に、その機能を代替する拠点
- 平時から多極分散型経済圏の中核として機能する地域

＜首都中枢機能代替地域の定義＞
- 大規模災害時のバックアップに特化した地域

※本ページの内容は、R8.9/9生駒市議会経済建設委員会の資料と同じ内容です。

Ⅱ　首都機能のバックアップにつながる国の施設誘致

大阪の優位性と課題

「大阪」は、経済や人口規模に加え、交通・空港・港湾などが発達しており副首都の筆頭候補地である

しかし、・・・湾岸部での、防災、バックアップ機能に課題

災害に強い内陸都市（けいはんな学研都市）にも首都中枢機能の集積が重要。

けいはんな学研都市第5期ステージプラン～ポスト万博シティけいはんな～ 令和8年3月策定

取組の柱 「関西の成長に寄与する東西軸等の他の拠点との広域連携」

万博開催地の「夢洲」と「けいはんな学研都市」を結ぶ“東西軸”を中心とする他の拠点等とも連携しながら、迅速な実証・実装等を進める。

「けいはんな学研都市」と「大阪」の連携が、国土の健全な発展につながる

※本ページの内容は、R8.9/9生駒市議会経済建設委員会の資料と同じ内容です。

Ⅲ　副首都に必要な機能と「けいはんな学研都市(学研高山地区)」の優位性

副首都に必要な機能

■行政・危機管理機能(大規模災害時の代替え機能)　けいはんな

政治機能
・国会審議を最低限続けられる議場・委員会室や、議員会館の代替施設など

行政機能
・内閣官邸・省庁の災害時代替庁舎、危機管理センター、政策立案機能を持つ庁舎群

司法機能
・最高裁など主要裁判所の代替法廷・事務局機能

(平時の多極分散型経済圏への対応)

■経済中枢機能　関西圏　(けいはんな)

国内外の企業本社や金融機関の集積
国際ビジネス・投資の拠点
イノベーションやスタートアップ支援

■国際交流機能　関西圏　(けいはんな)

国際空港・港湾
外国公館や国際会議(MICE)の開催能力
海外企業・人材を受け入れる環境

■交通・物流機能　関西圏・けいはんな

新幹線・幹線鉄道、高速道路・高規格道路
空港を結ぶ広域交通網
全国・海外との物流ネットワーク

■学術・研究機能　関西圏・けいはんな

大学・研究機関の集積
産学官連携による技術開発
高度人材の育成

■情報・通信機能　けいはんな

高速通信インフラ(冗長なネットワーク)
データセンター、重要サーバ群

■情報発信・メディア機能　関西圏　(けいはんな)

情報拠点
放送局やコンテンツ産業
デジタルメディア

■都市生活機能　関西圏・けいはんな

医療・教育・文化施設
多様な住宅・商業施設
外国人も暮らしやすい生活環境

出典:奈良生駒高速鉄道株式会社HP



・けいはんな学研都市は、大阪中心部と大阪メトロ中央線・近鉄けいはんな線が直通運転されており、学研高山地区の最寄り駅である学研北生駒駅から大阪の官庁街まで30分

けいはんな学研都市(学研高山地区)の優位性

(1)地震に強く、津波の心配がない「災害に強い“けいはんな学研都市(学研高山地区)”」

- 大規模地震や津波、洪水や土砂災害のリスクが低い！
  最上流部に位置する高台(丘陵地)洪水のリスクが低く、津波に対するリスクは無い。
- 災害時にも途切れにくい多重化が可能な情報通信インフラ！
  近傍に大規模変電所が立地し電力の安定供給が可能。都市部からの距離が30km圏内で、データ処理の遅延が少ない。近傍に通信ケーブルが既に敷設。

(2)地下シェルターなど各種の有事に強い総理官邸、省庁、国会等の建設が可能

- 国会、官庁街、住宅などを一体的に整備できる一団でまとまった土地
  広大な未利用地(約288ha・市街化区域)であり、ゼロベースでデザイン可能。
- 円滑な用地取得が可能な地域
  大阪市内と比べて地価が低い。約288haのうち、約6割(約160ha)を生駒市が所有。288haの区域内すべての境界確定済み(新たな土地取得による境界確定作業は実質不要)

(3)関西各主要都市との連携が可能な交通ネットワーク

- 鉄道では、関西圏と沿線地域との連携拡大、国土軸の多重化、東京一極集中の是正の観点から、北陸新幹線や、リニア中央新幹線の新駅設置が計画され、交通ネットワークの整備により、都市間の連携が強化される。
- けいはんな学研都市周辺には、国土軸である新名神高速道路、その接続道で関西大環状道路を形成する京奈和自動車道、第2京阪道路を介して関西国際空港や大阪湾ベイエリアとの広域ネットワークを形成する淀川左岸線などの高速道路網の整備促進が図られている。
- また、大阪圏の産業集積地とけいはんな学研都市を東西に結ぶ学研都市連絡道路(国道163号バイパス)の整備など、主要アクセス道の整備促進が図られている。

道路交通ネットワーク



※本ページの内容は、R8.9/9生駒市議会経済建設委員会の資料と同じ内容です。

Ⅳ　具体的な「けいはんな首都機能バックアップ施設集積」のイメージ

けいはんな学研都市の中心地区である「学研高山地区」に首都機能のバックアップ施設の集積を図り、「首都中枢機能代替地域」を目指す!!

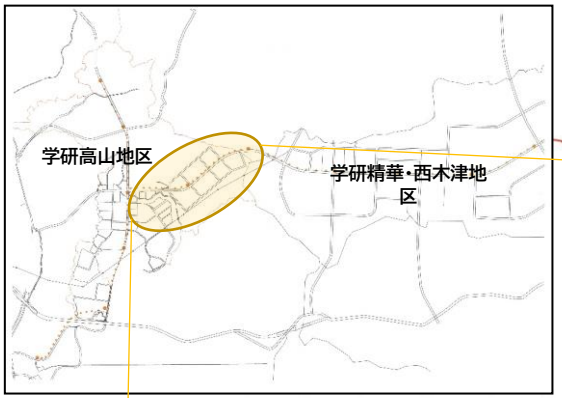
公益財団法人関西文化学術研究都市推進機構HPを基に作成



※本ページの内容は、R8.9/9生駒市議会経済建設委員会の資料と同じ内容です。

Ⅳ　具体的な「けいはんな首都機能バックアップ施設集積」のイメージ

首都中枢機能の集積イメージ（学研高山地区）



- 一団でまとまった土地の確保ができる
- 学研高山地区と学研精華西木津地区を（都）高山東西線で結び、首都中枢機能代替地域を形成することが可能

（都）高山東西線の速やかな整備を目指す（未整備区間）

更なる拡張可能

危機管理施設（危機管理センター）

防災大学校（自治体研修拠点）

国会関連施設

防災局

奈良県
高山地区

総理官邸に相当する施設

主要省庁の合同庁舎

情報センター（各省庁データの集約・バックアップデータセンター）

京都府
精華・西木津地区

衆参議員会館

更なる拡張可能

地下シェルターや危機管理センターを地下に設置するなど、道路整備や新たな土地造成と合わせた計画が可能

次世代交通システム（構想）

行政・危機管理機能

けいはんな学研都市は、首都機能の一翼を担うエリア!!
「学研高山地区」なら、首都機能のバックアップ施設の集積も可能!!

※本ページの内容は、R8.9/9生駒市議会経済建設委員会の資料と同じ内容です。

Ⅴ　今後について

今後は、奈良県・関西文化学術研究都市推進機構・
けいはんな学研都市エリアの府県市町村・国土交通省をはじめ
とする政府関係者・その他関係機関との調整を進め、
「学研高山地区」を**「首都中枢機能代替地域」**として、
首都機能のバックアップ施設の集積を目指します。

※本ページの内容は、R8.9/9生駒市議会経済建設委員会の資料と同じ内容です。

目次

１．学研高山地区南エリア(先行地区)

２．学研高山地区ゲートエリア(次工区)

３．施設誘致に向けた今後の具体的取組み

４．学研高山地区及び周辺地域の価値向上事業

学研高山地区及び周辺地域の価値向上事業について

－ 学研高山地区及び周辺地域の価値向上事業 －

事業概要

・ 学研高山地区のみならず、その**整備効果を周辺地域にも波及**させるため、周辺地域のニーズを把握。

・ 伝統文化･歴史や自然と最先端が融合した拠点形成を目指し「地権者・周辺住民・奈良先端大等」が参加し意見交換を実施。

・ 学研高山地区及び周辺地域の価値向上につながる、公民連携による**拠点構想案を作成**。

経過概要

R7.2～3

意見交換会

地域の魅力や特徴について、２回の意見交換(ワークショップ)を実施。

R7.5～6

アンケート調査

意見交換会の結果をもとに、求められる拠点について、市民等を対象にアンケートを実施。

R7.11～R8.2

意見交換会

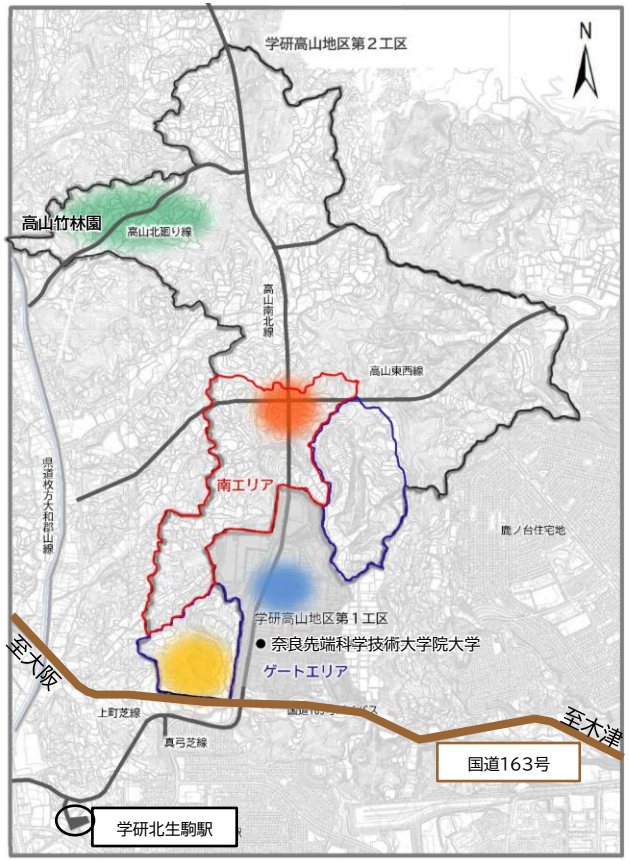
意見交換、アンケート結果などを踏まえ、３回の意見交換を行い、４か所の拠点構想案を作成。

R8.5

拠点構想提案報告会

参加者から市・奈良先端大に対して、拠点構想提案を報告。

意見交換を行ったエリア



自然･歴史文化との共生拠点

豊かな自然環境、歴史文化資源、伝統産業と最先端技術の融合、高山竹林園との連携。

周辺地域の暮らしの充実拠点

人の交流と賑わいを生み出す公共的空間。多様な生活に対応する生活利便施設や、他の学研都市との連携による学研高山地区の中核拠点。

大学と地域の連携･協力拠点

先端大の教育研究活動や産官学の連携、研究者等の育成やイノベーション創出を促進する拠点。

広域的な地域交流拠点

国道163号沿いで学研高山地区の玄関口にふさわしい交流と賑わいのある拠点。地域の魅力発信や自然の仕組みを利用した整備。

※ 各拠点の構想提案は参考資料を参照。

参考資料１

学研高山地区及び周辺地域の価値向上事業　構想提案

構想提案は、「学研高山地区及び周辺地域の魅力向上につながる拠点検討ワークショップ」で作成（R8.5/11）されたものです。拠点づくりの方向性を示す提案であり、実現を保証するものではありません。

学研高山地区　広域的な地域交流の場となる拠点　構想提案

【未来へのゲートウェイ】

高山の食の提供

フードコート

高山産の食材を使った料理や、高山の生産者と奈良先端大の共同開発によるグルメを味わい、楽しむことができる。

・奈良先端大の技術を取り入れたロボットによる調理・配膳を行う等、最新技術の展示場やリビングラボとしても活用。



道の駅どうし（山梨県道志村）WEBページより

直売所・ショップ

茶筌や編針といった高山地域の特産品や、近隣で作られた旬の農産品、米菓、酒、漬物等の食品、奈良先端大の技術により品種改良された農産物や食品が購入できる。



道の駅ごか（茨城県五霞町）WEBページより

防災拠点

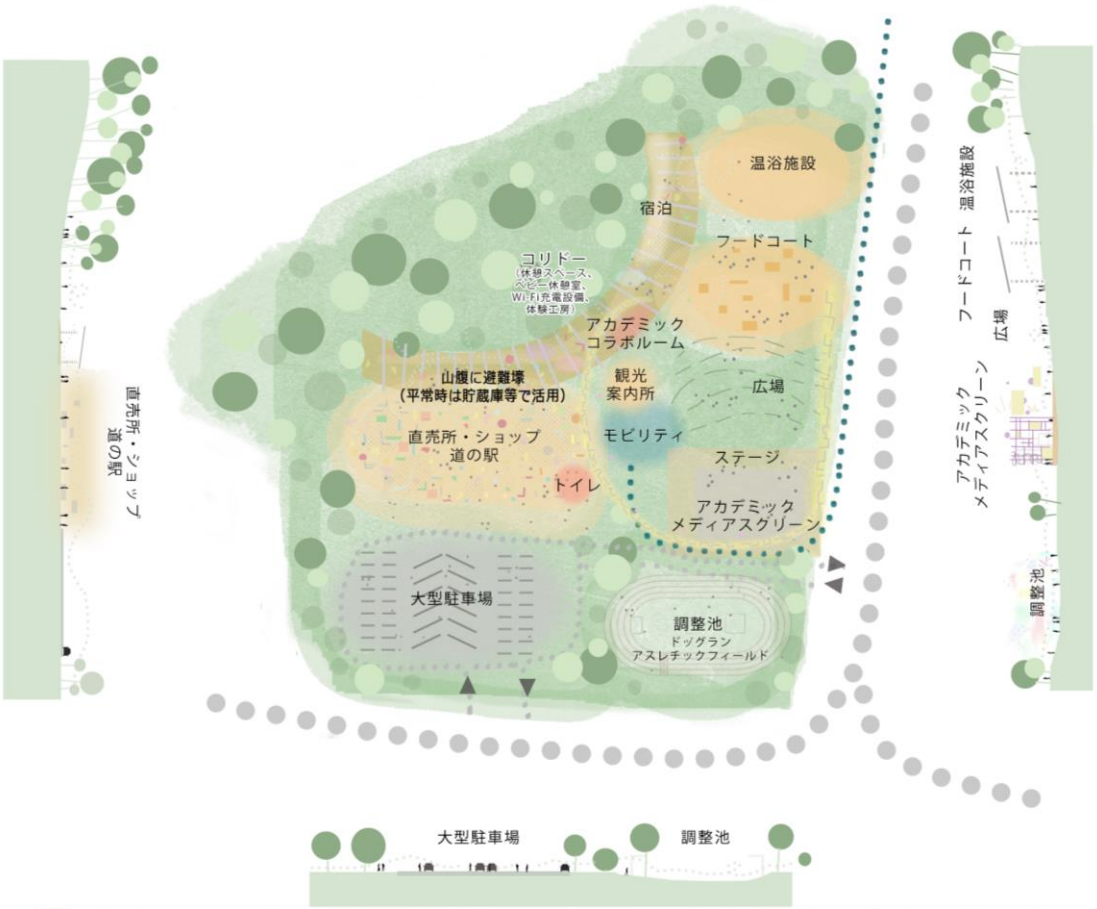
防災設備

広い敷地と国道沿いという立地を活かした防災拠点であり平時は道の駅として有効に活用する。

・大型駐車場はヘリポートに転用
・山腹に避難壕を設置し、平時は貯蔵庫等に活用
・広場にテント用　フック、炊出しコンロや防災トイレの設置



秋田県能代市のWEBサイトページより



休息・健康増進

温浴・宿泊施設

来訪者が休息につながる温浴施設や宿泊施設。大学の研究成果、技術の体験もできる。

・気軽に素泊まりできる。
・奈良先端大、奈良県立医大の連携による研究成果、ヘルスケア技術が体験できる



道の駅きつれがわ（栃木県さくら市）WEBページより

広場、ステージ、調整池など

来訪者が気軽に交流・休息できるスペースであり、イベントやスポーツを楽しむことができる。また集客につながる工夫がされている。

・高山を象徴する茶筌モニュメント『おちゃせん（落ちゃせん）』を設置。受験の聖地とし、話題づくりと集客が可能
・屋外イベントも開催できるステージを用意。地域内外の交流の場、地域と奈良先端大の交流を目的とする「先端大フェスタ」の場としても使用可能。
・小川や池等の親水環境、淡水魚水族館の設置
・調整池の上は、平時には気軽にスポーツを楽しめる施設（テニス、ダンス等のストリートスポーツ）やドッグラン施設を設置



道の駅あらい（新潟県妙高市）WEBページより

大型駐車場

国道163号線等の利用者の駐車場であり観光バスや輸送車両等の大型車両が駐車可能である。

・障害の有無にかかわらず利用できる多目的トイレの設置
・イベント時に上映できる仮設映画設備（ドライブインシアター）の設置
・非常時はヘリポートとして活用



道の駅いたの（徳島県板野町）WEBサイトページより

情報発信・交流

観光案内所

道路交通情報、高山地区の観光情報の提供や観光地への移動用小型モビリティを貸出す観光案内所

・高山地区の宿泊、飲食店等の情報提供
・奈良先端大の新技術によるモビリティ体験



道の駅まえばし赤城（群馬県前橋市）WEBページより

アカデミックメディアスクリーン

デジタルアート技術で奈良先端大の新技術・研究成果や地域（自治体・企業・団体等）の情報等を発信できる。

・プロジェクションマッピングの実施
・デジタルサイネージの設置



道の駅きつれがわ（栃木県さくら市）WEBページより

アカデミックコラボルーム

奈良先端大と地域が展示発表や会議ができる。

・奈良先端大の新技術・研究や市内小中学生の作品等の展示発表ができるスペース
・高山地区のまちづくり活動の会議、サイエンスカフェやセミナーの会場



道の駅富士川楽座（静岡県富士市）WEBページより

休憩スペース

山腹にコリドーを設置、その下に来訪者が一時休憩できるスペースを用意し、緑の近くで休憩ができる。

・授乳等ができるベビー休憩室、Wi-Fi設備、スマートフォン等の充電機器を設置
・イベント時には竹細工などを体験できるスペースを設置

この構想提案は、「学研高山地区及び周辺地域の魅力向上につながる拠点検討ワークショップ」で作成（2026.5/11）されたものです。拠点づくりの方向性を示す案であり、実現を保証するものでありません。

学研高山地区　広域的な地域交流の場となる拠点　構想提案【解説編】

拠点形成の目的

学研高山地区の広域的な地域交流の場となる拠点として、学研高山地区ゲートエリア(西)の交流・発信ゾーンを想定。

国道に隣接し、奈良先端大が近くにあるという特徴を活かした道の駅として、駐車場やトイレ、休憩施設といった基本的な機能のほか、有事の際の防災機能といった付加価値、さらには観光や伝統産業、情報発信の機能として、高山に関連する食の提供、健康増進、交流の場となる拠点を形成する。これらの拠点には先端大との研究成果実装の場を兼ねた、他の道の駅にはない高山の地域特性を活かした拠点を創出する。

利用者としては、学研高山地区の入口にふさわしい交流と賑わいが生まれる拠点となり、観光目的や大学及びけいはんな学研都市への出張者など遠方からの来訪が期待できるほか、大学生や地域住民の雇用創出にもつながる。

地域間連携・公共交通

大型駐車場を立地する特性を活かし、本拠点を軸として、高山地区の他拠点や観光名所等との連携した交通ネットワークの起点機能の創出を図る。LUUPやシェアサイクルなどのパーソナルモビリティ及び次世代交通システムの発着地等が導入されることにより、地域内の円滑な移動や周遊性の向上が期待できる。

高山の食の提供

活用できる地域資源

- 高山地区で生産される新鮮で多様な品種の農産物
- 奈良先端大の最先端の各種研究

地域への波及効果

- 地産地消の促進と消費機会の創出による地域経済への寄与
- 奈良先端大の技術力と連携し、新たな高山地区の魅力アピール
- ６次産業の仕組み化

地域の関わり

地元住民等	高山地区で生産される農産品等の食材や食品の購入、飲食
地元事業者等	農産品等の出品 フードコート・直売所・ショップの運営
奈良先端大	バイオ技術を使った品種改良、食品の開発

休憩・健康増進

活用できる地域資源

- 大阪圏からの良好なアクセス
- 医工連携を担う奈良先端大

地域への波及効果

- 地域内外の来訪者の施設利用による地域経済への効果
- 健康づくり活動を通じた地元住民等の健康の維持、向上への寄与

地域の関わり

地元住民等	各施設の利活用、広場等でのイベント開催と参加 スポーツコミュニティの組成と運営を通じた健康づくり
地元事業者等	各施設の管理運営、スポーツのインストラクター派遣 イベントの企画運営等
奈良先端大	奈良県立医大との医工連携による研究成果 ヘルスケア技術の提供。

防災拠点

活用できる地域資源

- 国道に隣接している立地
- 地元住民等、地元事業者等を構成員とする各種コミュニティ（自治会、自主防災組織、経済団体等）

地域への波及効果

- 災害発生時の被害最小化と、復旧迅速化
- 災害発生時の地元住民相互の助け合い、地元住民・地元事業者間の助け合い能力の向上

地域の関わり

地元住民等	防災拠点をベースとした自主防災組織の形成と運営等(防災訓練への参加等)
地元事業者等	食料・復旧資材の供給協力、拠点を利用した域外からの物資の調達と分配等
奈良先端大	防災技術(センサー、通信等)の実証、被害推定・避難行動・群集行動に関するシミュレーション等のデータ科学の研究成果の還元

情報発信・交流

活用できる地域資源

- 地域（行政、企業、団体等）が保有する観光、道路交通、地域防災、企業や団体の事業活動等に関する情報
- 奈良先端大が保有する新技術・研究成果

地域への波及効果

- 地元住民と地域外の住民間の交流を通じた地域振興
- 奈良先端大と地域（行政、企業、団体等）との交流を通じた地域振興
- 地域の魅力・情報発信拠点

地域の関わり

地元住民等	地域・地元団体の情報提供、来訪者向けの観光情報提供 アカデミックコラボルームでの展示発表等
地元事業者等	各施設の管理運営、アカデミックコラボルームでのイベント企画運営等、地域・地元団体の情報提供、エリアマネジメント組織の運営
奈良先端大	モビリティの開発・管理運営技術の提供、デジタルアート技術の提供、地元住民等を対象とした新技術・研究成果の発表等

学研高山地区　広域的な地域交流の場となる拠点　構想提案

【未来へのゲートウェイ】



この構想提案は、「学研高山地区及び周辺地域の魅力向上につながる拠点検討ワークショップ」で作成(2026.5/11)されたものです。拠点づくりの方向性を示す案であり、実現を保証するものでありません。

学研高山地区　大学と地域の連携・協力拠点　構想提案

【地域と大学の課題（ニーズ）と資源（シーズ）が『みつかる、つながる暮らしのまちラボ』】

地域課題×大学研究

②高齢者交流の場

先端大や県立医大との医工連携、企業の先端技術・機器の実証の場。

・高齢者交流施設



日本財団みらいの福祉施設建築プロジェクト

③まちかど保健室

地域の方が気軽に立ち寄れるサードプレイスかつ健康リビングラボ。

・次世代健康測定や健康相談
・ウェルビーイングに関する情報発信
・孤独対策として社会参加を促す「社会的処方（※）」の実施
・運動時データを取得し、研究に活用



藤田医科大学WEBページより

※社会的処方・・・医療や福祉だけでなく、人とのつながりや地域活動など“社会との関わり”を処方として勧めることで、心身の健康を支える考え方

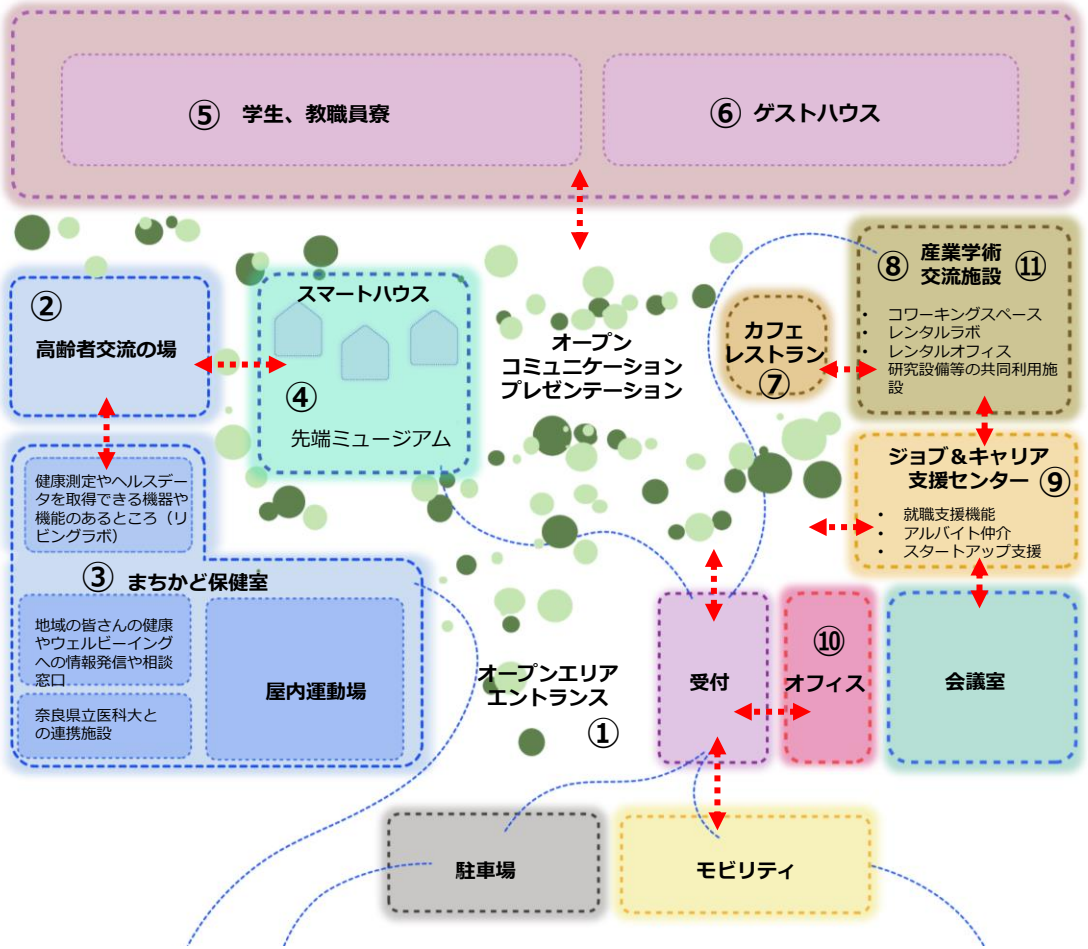
④スマートハウス・先端ミュージアム

IoTやAIなどの技術を駆使して、住む人によって、より安全・安心で快適な暮らしを実現する居住実験（体験）住宅。

・大学の技術や産学連携の成果を情報発信する実証体験型のミュージアム
・生活上の様々な情報を収集・分析し、研究に活用することで、快適な生活を実現



奈良先端大 WEBページより



周辺地域との共同利用

⑤学生教職員の寮（国際寮含む住宅施設）

大学と地域の交流促進や、入居者による自主運営寮。

・学生・留学生による語学教室や海外料理教室など
・学生・留学生アルバイトには寮費軽減
・地域散在・地域の方による賄い飯が食べられる



大和学園WEBより

⑥ゲストハウス（宿泊施設）

大学外の関係者が泊まれる、滞在おもてなしにも対応できるハイグレード施設。

・中長期滞在者やVIP来客
・社会人学生
・市民講座受講生
・学習ツーリズム参加のファミリー



長崎大学WEBより

⑦お洒落なカフェ&レストラン

大学関係者や地域住民が気軽に立ち寄れ、交流できる縁の空間。

・大学開発の食材や地域食材を活用
・留学生の自国メニューの提供



⑧大学研究設備の共同利用

大学が保有の最先端の計測・分析・加工設備を学内外共同で利用するための施設。

・大学でも取り組んでいるARIM（※）による機器やデータの共有を推進。
・レンタルラボやコワーキングスペースでも共同利用



ARIM Japan WEBページより奈良先端大

※ARIM・・・最先端の研究装置と材料データを全国で共有し、AIで新しい技術を生み出すための国家プロジェクト

産学連携・起業就業支援

⑨ジョブ&キャリア支援センター

周辺でアルバイト先や就職先を探したい学生と、若年層が少ない農業や地域産業を結ぶジョブ支援。

・大学連携の就職支援
・企業の採用支援
・アルバイト仲介
・研修教育
・キャリア支援　などの複合機能



アカリク WEBページ

⑩レンタルラボ、レンタルオフィス

産学連携の研究スペース、オフィススペース、研究機器の共同利用等。

・大学との共同研究企業
・大学スタートアップ
・地域の産業用地・産業施策との連携



KRP WEBページより健都

⑪コワーキング＋カンファレンス

スタートアップや企業、地域産業や住民、団体の会議や共創の推進に活用できる場。

・カフェや会議スペース
・国が進める大学共創拠点「イノベーション・コモンズ」として



NTT西日本 QUINTBRIDGEWEBページより

※イノベーション・コモンズ・・・大学に設けられ、多様な人が集まって新しいアイデアを試しながら共創する“開かれたイノベーション拠点”

エントランス・オープンエリア

①駐車場・モビリティ・受付

地域住民や企業、学生や大学職員など、“まちラボ”利用者を受け入れるエントランス機能。

・学研高山地区内外の各拠点を自由に移動できるモビリティ
・「ここに行けば大学とつながることができる！」「地域や企業といつでも交流できる！」そんなワクワク感のある空間

この構想提案は、「学研高山地区及び周辺地域の魅力向上につながる拠点検討ワークショップ」で作成（2026.5/11）されたものです。拠点づくりの方向性を示す案であり、実現を保証するものでありません。

学研高山地区　大学と地域の連携・協力拠点　構想提案【解説編】

拠点形成の目的

地域住民・大学・企業が連携して地域の課題や社会課題を共有し、大学の研究シーズを活用した解決策を創出し、その成果を企業が製品化・サービス化するまでを一貫して支援する拠点を整備し、地域社会の質の向上と持続的な地域経済の発展を図る。

機能の概要

- 地域の課題やニーズ、施設利用者のヘルスデータ（バイタルデータ）を含む多様な情報などを集約し、それらを大学や研究者と結び付ける場。
- 共同研究を行う企業が持つ研究シーズや製品を可視化し、地域住民や事業者、共創を望む企業とのマッチングを促進する機能を備える。
- 学生・教員・研究者など大学に関わる多様な人々が抱える課題や困りごとを、地域と共に共有し、解決していくための施設としても機能させる。
- 産業支援や地域の利便性向上を目的として、住民や地域産業、スタートアップ、企業、学生などが幅広く利用できる交流拠点として位置づける。

周辺地域との共同利用

活用できる地域資源

- 大学施設
- 地域住民のスキル
- 地元食材等

地域への波及効果

- 学研都市としての価値を高める。
- 来訪者が増加し、地域活性に繋がる。
- 海外の方にとっても交流の機会となる。

地域との関わり

地元住民等	大学の学生との交流、学びの場、最新技術の学習等。また、ウェルネスのくつろぎの中でのコミュニティなども実現する。
地元事業者等	大学との交流、新たな住民へのPR（スマートハウス展示等）
奈良先端大	研究成果の発表や展示が可能。また、外部との交流による研究促進や、新たな層の取り込みにも活用する。

地域課題×大学研究

活用できる地域資源

- 医工連携の研究シーズ
- 地域住民

地域への波及効果

- 地域の健康力の向上
- 居場所づくり等による介護予防、地域コミュニティの維持

地域との関わり

地元住民等	健康相談や運動、様々な健康観察を受けられることによる健康意識の向上や健康維持、病気の際の早期対応に繋がる。
地元事業者等	大学や地域全体として健康医療福祉に取組むことで、最新の知見を得たり、新たなサービス開発に繋げる。
奈良先端大	研究の実証の場としての活用のほか、地域住民との交流によるリアルな課題把握、実態に即した研究や成果への反映が可能に。

産学連携・起業就業支援

活用できる地域資源

- 学生、留学生
- 地域の企業

地域への波及効果

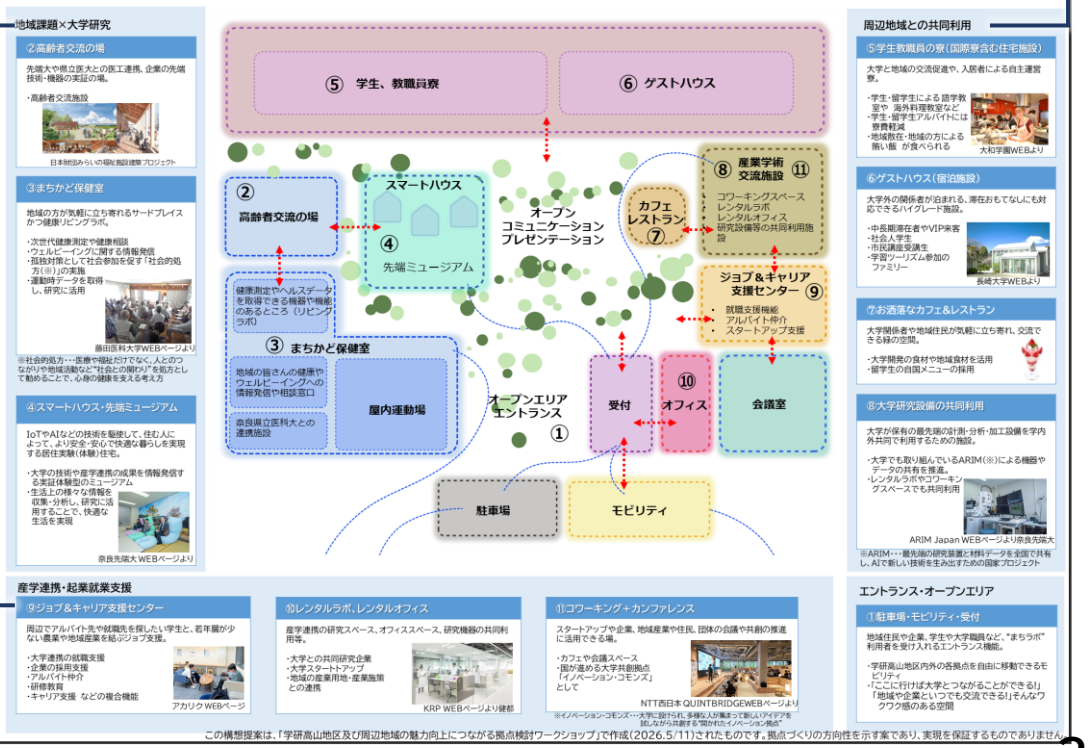
- 地域産業の維持・発展
- 起業等新たな産業の振興
- 大学・企業連携の促進

地域との関わり

地元住民等	新たな産業による地域活性、農業などの人手不足解消などの地域課題の解消
地元事業者等	人手不足解消、新規事業開発などを大学と連携することで新たな可能性が生まれる。
奈良先端大	学生の就職支援の充実、地域産業との連携強化、スタートアップ支援などによる大学シーズの事業化等

学研高山地区　大学と地域の連携・協力拠点　構想提案

【地域と大学の課題（ニーズ）と資源（シーズ）がみつかる、つながる暮らしのまちラボ】



この構想提案は、「学研高山地区及び周辺地域の魅力向上につながる拠点検討ワークショップ」で作成（2026.5/11）されたものです。拠点づくりの方向性を示す案であり、実現を保証するものではありません。

学研高山地区　周辺地域の暮らしの向上拠点　構想提案

【 食・健康・文化・学びの交流拠点　ー 生活の質が高まる“たけまるタウン” ー 】

商業／利便施設・ショッピング

スーパー・クリニック・薬局など

日々の生活の核となる商業施設

・日用品の買い物
・海外食材や地元野菜などの販売
・奈良先端大共同開発の商品も展開
・駐車場
・地域内の回遊性を高めるパーソナルモビリティ・自動運転の実装・実証



海外の食材も♪

飲食店など

公園などの緑を背景に、国際色豊かなカフェ&バー、パン屋、レストラン、居酒屋、バル

・アジアン料理やハラル食など、多様な海外訪問者への対応
・奈良先端大が開発した発酵食品やビール等
・会社がえりにも立ち寄れる



南池袋公園

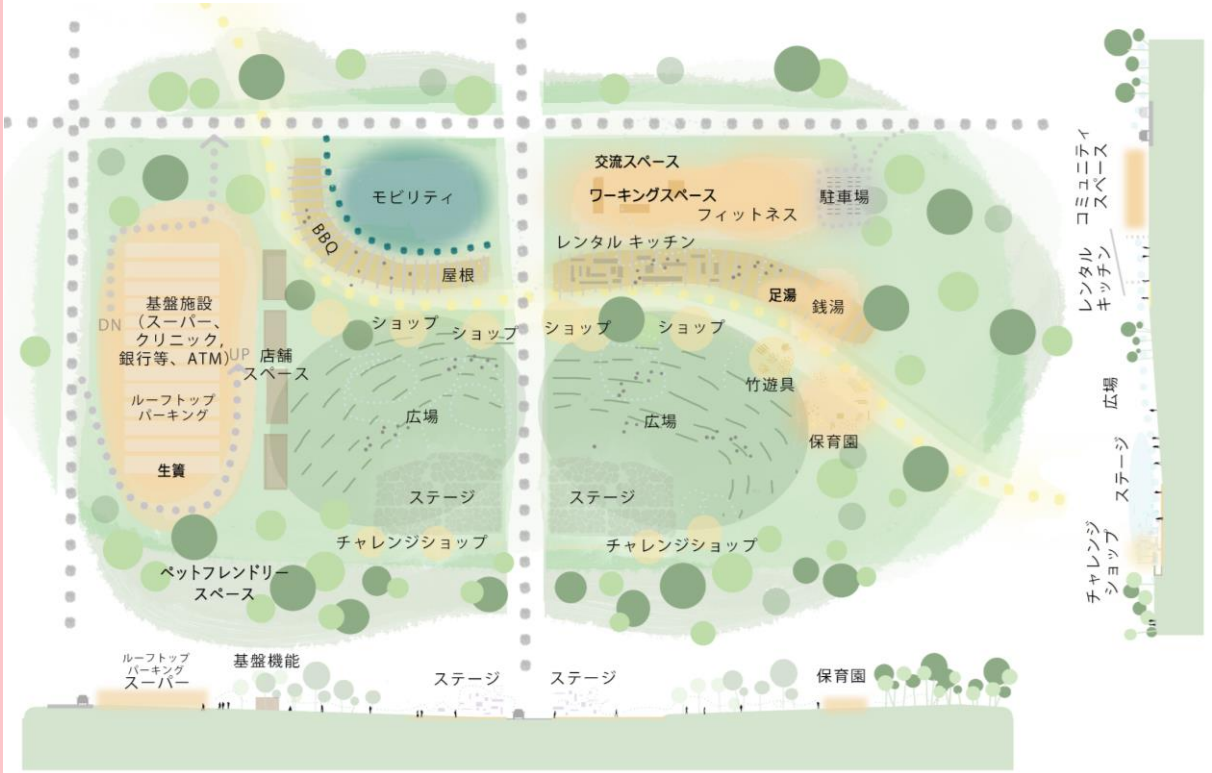
生活用品等ショッピングなど

ファッション、雑貨、園芸店や娯楽施設等、日常を豊かにするお店

・観光客などにも魅力的なショッピングの機会
・お酒店など、試飲体験などもできる



BONUS TRUCKのWEBページより下北線路街



学び・交流・コミュニティ

交流スペース・レンタルキッチン

地域と奈良先端大が交流できる地域交流スペース、チャレンジできるキッチン、趣味の教室など



瀬戸くらし研究所

・留学生などとの語学や調理などを通した 国際・文化交流
・竹編針などの趣味の教室
・大学によるサイエンスコミュニケーション（サイエンスカフェ）・実証実験
・学生や就業者のワーキングスペース

学びの場

学研都市にふさわしい、子どもから大人まで、学びの機会創出の場や保育園

・奈良先端大との連携
・アーティスト
等の活動の場
など文化を養う



保育園と大学の連携協定事例
社会福祉法人峰陽会のWEBページより

フィットネス・銭湯や足湯

日々の健康や交流を支える、ウェルネス機能を備えた施設

・身体を整える設備や 道具などは、竹素材（竹の足つぼふみなど）
・公園を眺めながら足湯



湖畔公園の足湯　諏訪市WEBページより

緑・公園

広場・ステージ・遊具など

地域の方々がくつろぎ、楽しみながら、健康づくりや音楽・踊り等のさまざまな活動・表現に取組める、地形を活かした広場やステージのある緑豊かな空間

・マルシェやチャレンジショップ
地場産野菜のファーマーズマーケット
・イベントや発表・表現の空間
（祭り、クラブ活動、音楽・踊り等）
・子どもの遊び場（プレイパーク等）
・ペットフレンドリースペース
・学生などのサークル活動
・防災機能



“KOTOPORT”
IKE-SUNパークWEBページより

BBQ

家族連れや友達、海外の方も楽しめる、エコで、季節を問わず快適に過ごせるBBQ設備

・奈良先端大の技術活用
（ベロブスカイトなど）
・アートとも融合
・外国人対応のBBQ食材
・生簀（いけす）で魚を釣ってBBQにも！



アートと融合した太陽光パネルのBBQ施設

大学連携のリビングラボ

公園などを使って、奈良先端大と地域共創の実証型研究などを実施

・奈良先端大などの研究開発の試行や、製品化された商品の販売など
・先端大による体験型イベントなどを実施
・ロボットの実証フィールド



下北線路街『BONUS TRUCK』
（株式会社散歩社提供）

地域資源「竹」や歴史的背景「古道」の文化の継承

全体のしつらえに竹を取り入れた、伊勢参りの古道の名残を今に伝える緑道
歴史の記憶を感じられる空間



・「たけまるくん」が来訪者をお出迎え
・遊具などにも、竹素材が活用
・古道の名残は緑道へ
・緑道の途中には、風情のある休憩所や茶筌で点てるお茶屋が点在
・生物多様性の促進



この構想提案は、「学研高山地区及び周辺地域の魅力向上につながる拠点検討ワークショップ」で作成（2026.5/11）されたものです。拠点づくりの方向性を示す案であり、実現を保証するものでありません。

学研高山地区　周辺地域の暮らしの向上拠点　構想提案【解説編】

拠点形成の目的

学研高山地区第２工区の中核として都市機能の集積が求められる南エリアを想定し、周辺地域の暮らしの質を向上させ、人々の交流を育む拠点として、ライフステージの変化や新しい生活様式に対応した生活利便施設の集積と、コミュニティが生まれる機能集積を図る。

緑豊かな空間と景観を形成するため、広場や緑地を核に日常の生活利便機能を配置する。緑の空間は、くつろぎと健康づくり、多様な活動の場とし、地域の祭りや大学のクラブ活動、音楽や踊りなどの表現の場としての活用とする。また、広場周辺には魅力的な店舗を点在させ、賑わいと回遊性を生み出す。地域住民だけでなく、海外からの来訪者・滞在者にも配慮した食や買い物の環境を整え、訪問者の滞在を支える、多様性を受け入れる拠点を形成する。

さらに、学研都市の特性を生かし、大学関係者・海外滞在者に開かれた国際的な学びと交流の場を形成するとともに、大学や研究機関と連携し、先端技術の実証・共創型の研究・交流、サイエンスカフェなど日常的な学びの機会を創出する。

これらの機能は、平日には地域での豊かな暮らしを支え、週末にはウェルビーイングを求める親子連れや観光客を迎える場となる。

地域間連携・公共交通

本拠点は、将来、学研高山地区第２工区の中核として、東西南北の周辺地域を結ぶ主要道路と隣接する結節点として、近隣住民や奈良先端大、地域事業者に加え、周辺地域からもアクセスしやすい立地である。

今後、まちの整備と合わせ公共交通の導入検討が進められるが、商業機能の活用を促すため、基幹となる公共交通に加え地域内の回遊性向上に向け、LUUPやレンタサイクルなどのパーソナルモビリティポートの導入が望まれるとともに、運転に依存せず、仕事帰りに立ち寄りが可能となる公共交通の充実も求められる。

学び・交流・コミュニティ

活用できる地域資源

- 海外からの滞在者、訪問者
- 奈良先端大などの知・研究成果

地域への波及効果

- 学研都市としての価値の向上
- 専門的な学びの実現
- 海外の方の交流の機会

地域の関わり

地元住民等	大学との交流・専門知識の学び、国際交流 ウェルネスのくつろぎの中でのコミュニティ醸成
地元事業者等	大学との交流、コワーキングの機会創出 企業CSR／CSVなどの活動
奈良先端大	留学生などの地域交流、サイエンスコミュニケーション ワーキングスペース

商業／利便施設・ショッピング

活用できる地域資源

- 地元の物産(野菜・茶筌・編針等)
- 大学と地域事業者などが開発した商品や研究成果など

地域への波及効果

- 一次産業を含めた地域産業の発展への貢献
- 大学や研究機関の研究・開発した成果の試行による普及・発展
- 周辺観光地への観光客の移動拠点

地域の関わり

地元住民等	生活に必要な日用品の買い物 働く・学ぶ・応援の場
地元事業者等	開発・生産したものの販売 レストランなどの事業展開
奈良先端大	研究・開発した成果の試行 学生・留学生・教員や海外からの訪問者の食や買い物

緑・公園

活用できる地域資源

- 地形、在来動植物、竹など
- 歴史的背景（古道・祭り・伝承・文化など）

地域への波及効果

- 地域の歴史の継承
- くつろぎ、健康、にぎわいづくり
- 竹など地域特産の波及

地域の関わり

地元住民等	日常的なくつろぎ、健康、にぎわいなどの場 地域の行事（お祭り）などの開催、参加 チャレンジショップなどのチャレンジの場
地元事業者等	日常的なくつろぎ、健康、にぎわいなどの場 CSR／CSVなどの活動、地域貢献
奈良先端大	地域共創型の研究 学生や教員などの活動の場所

CSV（Creating Shared Value：共通価値の創造）：企業が本業の中で社会課題の解決に取り組み、経済的な価値と社会的な価値の両立を目指そうとする考え方

学研高山地区　周辺地域の暮らしの向上拠点　構想提案

【 食・健康・文化・学びの交流拠点 ー 生活の質が高まる“たけまるタウン” ー 】



この構想提案は、「学研高山地区及び周辺地域の魅力向上につながる拠点検討ワークショップ」で作成(2026.5/11)されたものです。拠点づくりの方向性を示す案であり、実現を保証するものではありません。

学研高山地区　自然･歴史文化との共生拠点　構想提案

【みんなで体験！高山のあれこれ　みんなで活用！高山地区の資産】

農業、自然活用

竹の活用

建物や農業資材などに竹を使用し、様々な竹活用案の展示場に。

･竹のビニールハウス、竹チップ、肥料、ベンチ、発酵熱の活用等



農林水産省WEBページより

大学連携

大学と連携した農業技術･農産物の研究･開発成果の導入･展示。また、学術の地域展開に向けた実証の場としても活用。



奈良先端大WEBページより

循環型農業の実践

循環型農業、自然との共生の実践･発信。
･アクアポニックス
･竹チップ活用
･子どもたちの学びの場としても活用。



(一社)アクアポニックス推進協会紹介資料より

農のリアルを知る農業体験

一般的な収穫体験だけでなく、農業の地道な作業や、自然に振り回されるリアルも組み込んだ体験コース。

･草刈や力仕事など
･自然に左右されることも貴重な体験
･就農希望者にとって実践的な判断材料に。



生駒市WEBページ

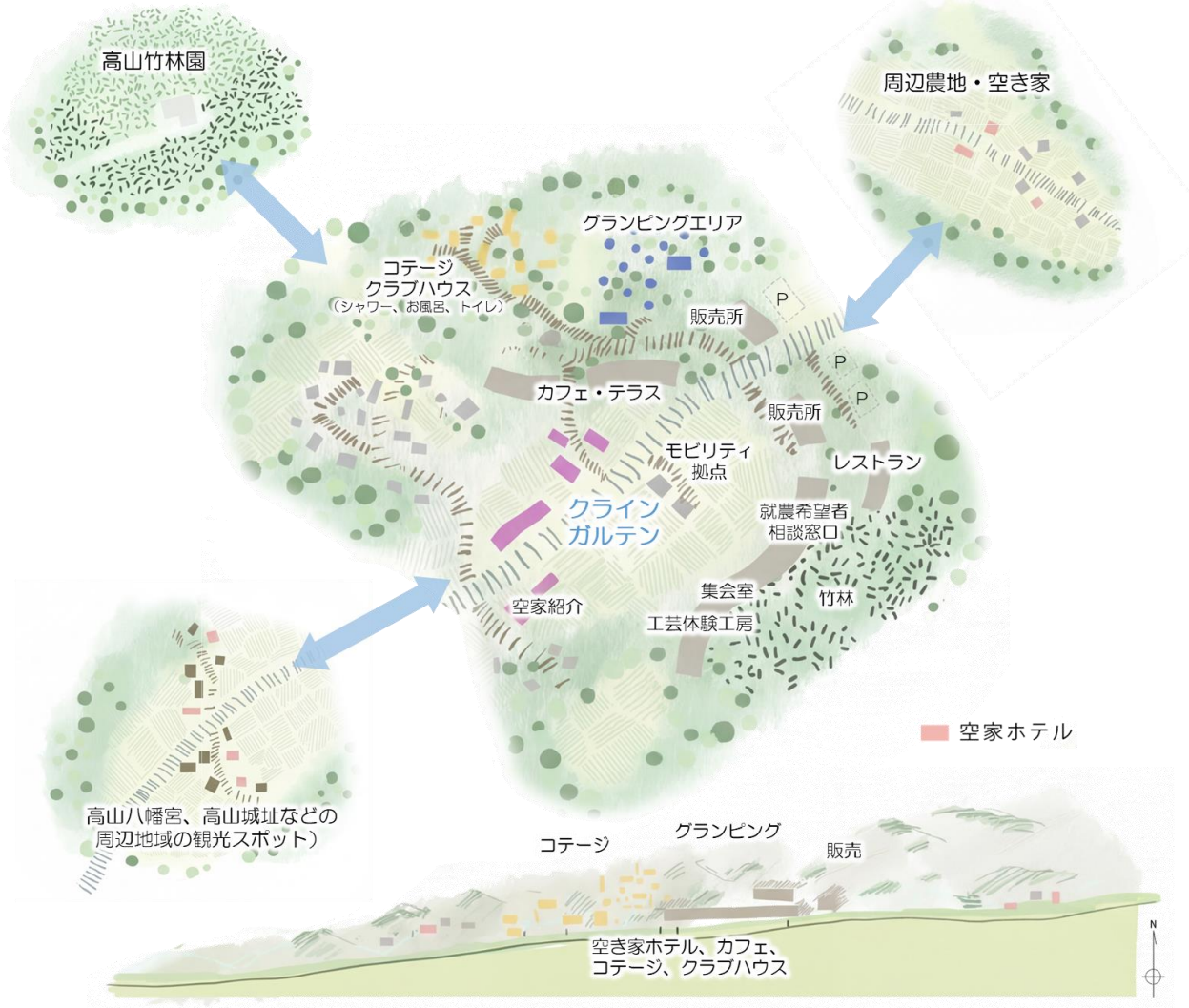
農業サポート、就農相談

体験者や農業経験が浅いクラインガルテン利用者に向けたサポートを行う。

･農機具貸出
･レクチャー
･トイレ･シャワーの整備
･就農相談など。



生駒市公式note



移住対策

お試し移住、空き家紹介など

移住希望者に、実際の暮らしを体験してもらうことで、移住後ギャップを解消。

･空き家紹介
･お試し移住のコーディネート。



グッドサイクルいこまWEBページ

飲食

レストラン･カフェ

地域住民が調理や運営する素朴な味わいのレストラン。

･地域農産物や大学発食材を使用。
･地域内外の交流拠点としても活用。



生駒山麓公園WEBページ

宿泊･観光･文化体験

キャンプ場、グランピング場

高山の自然を感じる入り口施設として。
･竹活用等の特色ある施設･設備、
･農業体験や工芸体験もできる
･高山来訪のきっかけに



生駒山麓公園WEBページ

工芸体験･地域物産販売所

来訪者に高山の魅力を知ってもらう。
･竹細工
･茶筌づくり体験
･野点や茶室体験
･地元作家によるアート体験など



生駒市WEBページ

ガルテン･クラインガルテン

農地つきコテージ、ガーデン付きコテージを通年賃貸し、週末農業やガーデニングを楽しむコース。
農業や庭園巡りを通じた交流の場としても活用。



笠間クラインガルテン
笠間市WEBページより

皆で育てる空き家ホテル

空き家DIYワークショップなどで地域内外で協働して、空き家をホテル化。
空き家に新たな価値とコミュニティを創り出す。



沖縄県移住応援サイト
おきなわ島ぐらしWEBサイトより

モビリティ拠点

ガルテン･観光農園と高山の名跡等を繋ぐ周遊コースの整備。
サイクリング拠点などもおき、他拠点との連携も図る。



高山八幡宮WEBページより

この構想提案は、「学研高山地区及び周辺地域の魅力向上につながる拠点検討ワークショップ」で作成(2026.5/11)されたものです。拠点づくりの方向性を示す案であり、実現を保証するものでありません。

学研高山地区　自然・歴史文化との共生拠点　構想提案【解説編】

拠点形成の目的

この地域は学研高山地区第２工区の自然的土地利用を想定し、豊かな自然環境を活かし、周辺の伝統産業や歴史文化資源と一体となったエリアを形成し、自然体験と地域文化を楽しめる滞在・交流の場の創出を目指す。地域の観光資源や事業者、住民と連携し、飲食や農業指導、体験プログラムなどを通じて来訪者を受け入れる体制を整えるとともに、地域同士をつなぐ拠点を整備し、交流の広がりを促進する。施設としては、クラインガルテンや観光農園を中心とした体験型施設に加え、周辺地域の空き家を活用した宿泊・移住や、耕作放棄地の活用や地域課題の解決にもつなげる。また、お試し移住や農業体験など多様な機会を設け、都市部の来訪者や新規就農・就業希望者、移住検討者を呼び込み、滞在から定住へとつながる流れを創出し、持続的な地域活性化を図る。

地域間連携・公共交通

各拠点が役割を分担しながら相互に連携し、地域全体の魅力向上と回遊性の創出を図る。農園は大学の研究やリビングラボの拠点として活用し、実証実験や成果発信の場とする。今後整備が想定される道の駅と連携し、来訪者を体験拠点へ誘導するとともに、農産物の出荷など双方向の連携を進める。さらに、基幹となる公共交通に加え地域内の回遊性向上に向け、LUUPやレンタサイクルなどのパーソナルモビリティポートを導入し、移動環境の向上を図る。加えて、先端大や高山竹林園、高山八幡宮などとも連携し、学術・観光・文化が連動する広がりある地域づくりを目指す。



この構想提案は、「学研高山地区及び周辺地域の魅力向上につながる拠点検討ワークショップ」で作成(2026.5/11)されたものです。拠点づくりの方向性を示す案であり、実現を保証するものではありません。

農業・自然

活用できる地域資源

- 空き農地や耕作放棄地
- 農業者による新規就農・農業体験支援
- 竹・竹産業・茶室技術者
- 自然豊かな環境
- 奈良先端大

地域への波及効果

- 竹などの地域特産の波及
- 地域産業の活性化
- 大学連携による農業生産性の向上

地域の関わり

地元住民等	空き農地の提供や農業や自然に関する各種イベントへの参加・運営農業体験者との交流など
地元事業者等	循環型農業の実践の場の運営、農のリアルを知る農業体験をきっかけとする新規就農者の育成、高山特産品のPRなど。
奈良先端大	大学連携による先端技術の導入、研究成果の社会実装・展示の場、地域農業者等と意見交換や課題共有の場として活用。

移住対策

活用できる地域資源

- 空き家や古民家
- 子育てしやすい地域コミュニティや自然環境

地域への波及効果

- 空き家活用による地域課題の解決
- 移住者の増加による地域活性化

地域の関わり

地元住民等	空き家の提供や、お試し移住者との交流・コミュニケーションで高山の魅力を伝える。
地元事業者等	空き家DIYイベントや空き家仲介などの住まい対策、また移住相談やコーディネートなどで安心して移住を考えられる仕組みづくり。
奈良先端大	環境やスマート技術などの研究成果や実証実験による地域の新しい価値や産業の創出。

飲食

活用できる地域資源

- 地域の農産物　特産品
- 地域事業者、地域住民
- 地元食材を活かした料理

地域への波及効果

- 物販等による地域経済の活性化
- 雇用や地域住民との交流を生み出す場の創出

地域の関わり

地元住民等	調理や運営の担い手、働く場、住民同士や地域外の来訪者とのコミュニケーションの場としての利用
地元事業者等	地元農産物の提供、茶に関するメニュー・コンテンツなどで消費拡大や高山特産品のPRに繋げる。
奈良先端大	学生のアルバイトの場や地域住民とのコミュニティの活性化

宿泊・観光・文化体験

活用できる地域資源

- 空き家や高山の自然環境
- 高山竹林園や高山八幡宮などの歴史文化資源
- 竹細工や茶筌などの伝統工芸品

地域への波及効果

- 農業や高山の産業振興
- 来訪者が滞在することで地域住民との交流や高山の魅力の創出

地域との関わり

地元住民等	自然環境を活用した体験ワークショップや食の提供、地域の魅力を伝える案内役、来訪者との継続的な関係性の構築
地元事業者等	自然体験宿泊の運営、クラインガルテン利用者に対する農業指導などの、自身の経験や知識の伝達。
奈良先端大	自然や科学体験などの学習プログラムの提供などにより、他拠点にはない魅力ポイントの発信。